

平成 29 年 6 月 25 日
柏田三千代

日本国際情報学会
第 5 回 愛知 (PH) 研究部会勉強会 報告書

【日程】 平成 29 年 6 月 3 日 (土) 12:30~18:30

【場所】 赤坂 アークヒルズ

【参加者】 8 名

【内容】

懇親会 (昼食) 日本国際情報学会 会長 近藤先生からの挨拶

発表 草野純子さん 「看護教育におけるプログラミング教育の可能性」
坊農豊彦さん 「地区防災計画制度」
磯部千枝さん 「スマート社会に要請される、人間性の涵養について」

日本国際情報学会 副会長 佐々木先生からの総括

【総評】

第 5 回愛知 (PH) 研究部会の勉強会は、日本国際情報学会会長である近藤先生の挨拶から懇親会が始まり、美味しい料理を堪能しながら、参加者が互いに近況報告を語り合っていました。

研究発表では、草野純子さんから「看護教育におけるプログラミング教育の可能性」について、看護教育の現状を踏まえた上で、変化が激しく予測できない未来に向けたケアに必要な力とは、そして多様な価値観を持った個々に寄り添うケアを生み出していくために必要になる力<考える力>であると述べられ、看護教育にプログラミング教育を導入することで、創造性と論理的思考力が向上させることができるのではないかと提言がありました。また坊農豊彦さんは「地区防災計画制度」で、共助・公助・自助が三位一体となった“まち”づくりの一環としての<防災計画>を、住民ができることから楽しく始め、意欲や決意の度合いに応じた計画設計と地域コミュニティ主体のボトムアップ型により、活きた地区防災計画として、“まち”の自律的・持続的な発展を促す仕組みについて発表されていました。磯部千枝さんの「スマート社会に要請される、人間性の涵養について」では、近未来に訪れる超スマート社会への展望から今後の課題として、<このような社会を背景に職場や個人が属する様々なコミュニティで問題解決に向けたエネルギーを保ち続けられるのか、コミュニティの中でも人間同士の有機的な関係を築いていける一個人でいられるのか>との問いかけをされていました。

これら 3 題の発表を通じて参加者全員で活発な意見交換が行われ、参加者各々の異なる立場からいろいろな発言が聞かれました。時間内では尽きず、時間を延長して話し合いは続けられました。

最後に佐々木健先生からの総括では、今後の研究への取り組みについての指導が行われ、次の研究へとつなげられる勉強会になりました。



以上